

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191200080		
法人名	有限会社 九州メディカル・サービス		
事業所名	グループホーム安心いちたけ		
所在地	佐賀県三養基郡みやき町大字市武1234番地		
自己評価作成日	平成22年1月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年2月24日	外部評価確定日	平成22年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者本位のケアを理念に掲げ、日々支援させて頂いている。地域のお祭り、区役等積極的に参加し地域交流にも力を入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

広い敷地内に建てられた2階建てのホームであり、南向きの大きな窓は開放感にあふれている。地域との交流を深めようと、地域のお祭り、区役等の行事に積極的に参加をしている。犬がホーム内で飼われており、入居者と一緒に散歩をしたりして喜ばれている。入居者のケアについては、自立支援、個別ケアの充実を目標に、職員全体で理念の実践に努めている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営会社の理念を基に事業所独自の理念を掲げ、朝礼時の唱和を行い、理念の具現化に取り組んでいる。	同左	毎朝、申し送り時に職員全員で作り上げた理念を唱和し、日々のケアで実践出来るように心がけている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区役、お祭り、文化祭等に積極的に参加し、地域の方々と交流を図っている。	同左	日頃から、近くの公園に散歩に出かけ地域住民との交流に努めるとともに、事業所で行う行事への参加を、回覧板で呼びかけたりするなど地域との交流を深める工夫をしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方と話し支援を行っているが、大体的には行えていない。	同左	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的ではないが運営推進会議を開催し、ホームの現状、今後の展開など説明している。参加者の意見を活かし質の向上に努めている。	同左	定期的な開催は出来ていないが、民生委員、家族、職員等が参加した運営推進会議で、施設の行事の紹介や消防訓練に地域住民の参加を呼びかけたりして、会議で出た意見を運営に生かせるように努めている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者からの実地指導、町が開催する地域ケア会議等を通し、指導や情報交換しサービスの向上に努めている。	同左	主に地域ケア会議にて、参加者との情報交換を行い、協力関係を築くよう努めている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設以来、身体拘束は0である。	同左	施設内カンファレンスを通して、身体拘束をしないケアの検討を行っている。玄関近くの出入口にセンサーを設置し、施錠をしないで安全を確保する工夫がなされている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンス等にて高齢者虐待の話を行い、防止に努めている。	同左	

自己	外部	項 目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等で権利擁護に関することは理解出来ており、必要な方には情報提供を行っている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居希望者には事前に十分な説明を行い、施設見学の後、納得された上で契約を行っている。	同左		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームに要望BOXを設置している。また契約時に苦情等の外部窓口の連絡先等を説明している。	同左	入居時に家族と本人から要望等を聞いている。日頃の面会時に、意見や要望を聞くように努めている。月に1回は、手紙や写真で入居者の様子を家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に意見や提案は聞き入れサービスの向上に努めている。	同左	月1回のカンファレンスや年に2回の個人面談を通じ、管理者は、運営に対する職員から意見を聞き入れ、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境、働き甲斐のある環境を作るよう取り組んでいる。	同左		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修や法人内の勉強会等に参加し、より実践的に学べるよう取り組んでいる。	同左		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のホーム間での職員の相互訪問、地域内で行われている地域ケア会議に出席できるよう取り組んでいる。	同左		

自己 外部	項目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず本人に会い、充分な話ができる機会を作っている。疑問・質問等は丁寧に答えし理解を得ている。	同左	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の意見や要望をしっかりと聞き取り、家族の意見を反映できるようにしている。	同左	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームへの入居が必要でないと判断できる際は他のサービスを紹介し支援している。	同左	
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	喜怒哀楽を共にし生活を援助する事で家族のような関係をつくるよう努めている。利用者から学ぶことは多く、支え合う関係が築けている。	同左	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞き、共に支援を考え利用者を支えていけるよう関係を築いている。	同左	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事への参加、馴染みの場所へドライブ・散歩を行い関係が途切れないよう努めている。	同左	入居者の自宅に何人かで訪ねたり、地域の知り合いの家を訪ねるなど関係が継続できるよう支援している。年に何度も自宅の仏壇にお参りに帰る入居者もある。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりを大切にし、共に過ごせる場所を確保し支え合えるように支援している。	同左	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も施設行事への参加の促しや継続的に連絡を行うように努めている。	同左	

自己 外部	項目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人との会話を通し希望・意向を聞くようにしている。意思表示が困難な方は、家族・職員の意見を聞きサービスの検討を行っている。	同左	入居時に、本人や家族から希望や意向を聞いている。又、日常的に本人と会話の時間を多く持つことで、希望や意向の把握に努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に応じ生活歴を把握し、普段の会話でも出来るだけ昔を回想させるよう配慮している。	同左	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の介護を通し、職員間で現状把握と自立に向けたサービスの提供に努めている。	同左	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員等で話し合いを行い、それぞれの意見を反映した介護計画を作成している。	同左	各入居者に担当を決めており、担当者と計画作成担当者と話し合い介護計画を立案し、職員全体で作り上げている。家族にも話を聞き、より良い介護計画の作成に努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護スケジュール、業務日誌等に毎日記録を行い、休日であった職員が出勤しても状態が分かるように努めている。	同左	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	関係医療機関と連携し、可能であれば実施するように努めている。	同左	

自己	外部	項 目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や区役に職員とできるだけ参加し、地域資源を活かすよう努めている。	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅総合診療を利用し、適切な医療の提供を受けられるように支援している。	同左	入居前に、本人や家族とかかりつけ医について説明と話し合いをしている。眼科の受診にホーム職員が付き添う等適切な医療の提供を受けられるよう支援がされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制が整っており、ホームにも看護師が勤務し健康管理には十分な配慮を行っている。	同左		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づ	医療機関とは連携を密にし早期退院に向け働きかけている。又、利用者の不安を和らげるよう随時面会を行っている。	同左		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医師と密に話し合いを行い、本人、家族が希望する方針を決め、それを家族、医師、職員全員で共有できるよう努めている。	同左	入居時に、「終末期の指針」を取り交わしている。その後も、家族等からの意見を聞き、職員全員で共有し、日々のケアに生かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、勉強会等も定期的に行っている。	同左		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施しており、近隣にも応援していただけるよう呼びかけている。	同左	消防署や地域の防災管理者の立ち会いで、訓練を行っており、今後も、より多くの地域の近隣住民の協力を得られるよう呼びかけ、地域との協力体制が築かれている。	

自己 外部	項目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
		実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重した支援を行っている。 職員には朝礼、定例会議、又は個別に随時指導している。	同左	2ヶ月に1回開かれる研修会にて、人格の尊重やプライバシーの確保について学び、日々のケアに生かしている。管理者が気がついた時は、個別に指導を行うようにしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の思い、希望を日々の会話の中で聞き取り、その方にあったサービスを提供できるように努めている。	同左	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者中心、自分らしく一人ひとりに合った時間の過ごし方をサポートしている。	同左	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容室に来てもらっている。また希望者には行きつけの美容室にスタッフと行けるよう支援している。	同左	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を把握し、食べれない物は提供せず代え食を準備し対応している。又、希望があった際は外食や出前をとったりしている。	同左	宅配の材料を利用し、時にはホーム職員だけで調理をする事もあるが、利用者も出来る限り一緒に準備するようにしている。決められた献立を変更したり、食べやすいように刻んだりして提供されている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの1日トータルの水分量、食事量を記録し、摂取量の少ない方はおかゆや捕食を行っている。	同左	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアを行い、必要があれば時間をかけ清潔が保てるよう支援している。	同左	

自己	外部	項 目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェックシートを用い、排泄のパターンを把握し、利用者に合った排泄を心掛けている。	同左	時間毎に誘導して、一人ひとりの排泄パターンを把握することで、主にトイレで排泄が出来ている。体調を崩しオムツを使用される時期があっても、なるべく早く自立に向けた支援を開始している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には水分を多くとっていただいたり、運動を促す等の支援をしている。	同左		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則的に週3回の入浴日を設けている。希望があれば毎日でも入浴可能としており、体調、プライバシーにも配慮しながら時間をずらしたり、柔軟に対応している。	同左	原則的に入浴日は決めてあるが、回数や時間について希望に応じることが出来る体制が出来ている。入浴を好まない方へは、馴染みの職員が工夫をして声をかけることで入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活歴や状況に応じて、安心できる環境・空間作りに努めている。	同左		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等があった場合は必ず全職員に申し送りするようにしている。薬の副作用におけるリスクも想定し対応している。	同左		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力に合わせた役割を持っていただく等の配慮をし支援している。	同左		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際、又は必要に応じドライブや散歩を行い外出の支援を行っている。	同左	行事としてのドライブをしたり、天気の良い日等入居者の希望に応じた外出をしている。日々の散歩や玄関先に花を植えて、日光浴に誘う等支援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価(Aユニット) (事業所記入欄)	自己評価(Bユニット) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理能力のある方には所持していただき必要に応じ買い物等ができるよう支援している。	同左		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された場合は支援を行っている。	同左		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に花を飾ったり家庭的な雰囲気作りに日々取り組んでいる。又、利用者の意見を取り入れ模様替えも行っている。	同左	居間のソファや食卓テーブルはゆったりと配してあり、それぞれに自分の居場所が確保されている。季節を感じさせる飾り付けを工夫し、居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で過ごせる場所を確保している。一人ひとりに好きな居場所があり、その場所で落ち着いて過ごされている。	一人になったり、気の合った利用者同士で過ごせる場所を確保している。一人ひとりに好きな居場所があり、その場所で落ち着いて過ごされている。	同左		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族と相談し、今まで使っていた家財道具を持ち込んでもらい、本人の慣れ親しんだ環境作りに努めている。	同左	入居時に、なるべく馴染みの品物を持ってきてもらうように説明がされている、居室は、一人ひとりの希望に添ったものになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりや滑り止め等を利用し、出来るだけ自立して過ごせるよう工夫を行い、職員は見守る姿勢で援助している。	同左		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない